巡回ワークショップ「むすび塾」に参加しました（2012/5/6）

５月６日（日），大曲地区センター（宮城県東松島市）にて，東松島市大曲貝田地区にお住まいのみなさんと震災を振り返り，地震・津波への備えを話し合う，巡回ワークショップ「むすび塾」が河北新報社の主催で行われました．大曲貝田地区は，東松島市の東部を流れる定川沿いに位置し，東日本大震災では津波により全域が浸水する被害を経験しました．

「減災むすび塾」では，2011 年３月 11 日当時の地震直後からの行動や体験を参加者が一人ずつ話し，避難の様子や，津波の状況，地区内で実施した避難誘導活動，避難後の体験などを振り返りました．そして，これからの防災・減災対策について話し合われ，地震の際には情報に注意して自らの判断で避難することや，隣近所で日ごろから声を掛け合い災害時にも助け合うこと，災害に備えた備蓄の重要性などが確認されました．各世帯で備蓄する物資は２階など津波や水害の被害を受けにくい場所に保管しておくこと，ソーラー充電式の照明を導入して夜間の避難に備える必要があるなど，震災の体験に基づいた教訓も共有されました．

災害科学国際研究所からは，佐藤健教授（情報管理・社会連携部門），安倍祥助手（寄附研究部門）が参加しました．佐藤健教授は，学校の防災や安全の観点から，（避難場所となる）学校と地域における防災の取り組みや話し合いが共有され，学校の先生と地域住民が連携する姿を子どもたちに見せていくことが大切とアドバイスをしました．

むすび塾の様子は，５月１１日の河北新報に掲載されています．

減災むすび塾の様子

佐藤健教授（右）によるアドバイス

文責：安倍　祥（寄附研究部門）